

東京新聞

夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

削られる小石川植物園



小石川植物園 1877年の東大設立
園 正式名称
とともに附属植物園と
は「東大院理
になった。植物標本17
学系研究科附属植物
0万点を所蔵、特に東
園」。1684(貞享
アジアの植物研究では
元)年、將軍になる前
世界的センターとして
の徳川綱吉が住んでい
機能する。変化に富ん
だ白山御殿の跡地に幕
府が造った薬草園「小
石川御薬園」が前身。
一般開放している。

日本最古の植物学研究施設、小石川植物園(東京都文京区)が、本年度始まった塀改修と区道拡張のため、一部縮小される。植物園の敷地は江戸時代の前身からほぼ同じで、明治時代以降は全く変わっていない。周辺住民からは道路が広くなると歓迎の声が上がるが、「植物園の形そのものが歴史的遺産。安易に削っていいのか」と疑問の声も聞かれる。(井上圭子)

隣接の区道拡張へ



約十六万平方メートルの園内には、約四千種の植るきっかけは、同園の物が研究対象として育。戦後、コンクリで覆われている。昨夏、悪臭を発する巨大な花「シヨクダイオオコンニャク」の開花が話題となった。

山御殿町睦会」の島川 健康会長は「今の塀は大切な研究対象。一度見た目も悪いし倒れたら危ない。中が見える目も汚い」と苦情が近。その後、南東側と南隣住民から出ていたが「所有者は東大」(区・五軒(最大幅二・九メートル)で全長八百九十メートル)にわたり、千二百平方メートルに貸与することになった。

北西と南東に伸びる長方形の敷地。東大埋蔵文化財調査室の資料によると、前身で一六八四年開園の「小石川御薬園」からその形状はほとんど変わっていない。「明治維新以降は同じ」と前園長の田仁東大教授は言う。関係者ら「形も歴史的遺産」反対の声

工事では、植物園の樹木七十一本が伐採される。ほかに四十七本は植物園内に移植され、百十七本が枝切りされる。同園で植物の子さん(金)は「敷地そのものが歴史的遺産なのに削るとは。区は緑を豊かに」という名目で、緑を削るつもりでおり、おかし」と話している。